

平成二十七年 俳句コンクール成績発表 S25 専電 塚越としを

兼題：虹・七夕・案山子

【特選】山間に束の間の虹雨あがる

S 30 学機 檜山 邦良

評 山歩きの好きな作者。俄か雨に遭って雨宿りをしていたら、幸いに

雨が上がって美しい虹が出た。そのささやかな喜びです。

【佳作】置き去られ山田の案山子怒り立つ

”

(あんなに働いたのにと、不満一杯です。ご主人冷たいね)

笹にむすぶ幼き恋や星祭り

会友 平野 昌子

(若き頃の綺麗な思い出です。大切に致しましょう)

泣くまいぞ刈田のあぜに寝る案山子

”

(捨てられましたか、仕事を終えた満足感はありませんが)

二重虹とらえて心安らぎぬ

穂坂 芳子 (邦光氏夫人)

(日々多忙な生活の中で、ほっとした喜びが出ています)

エキナカの七夕飾り子の願ひ

”

(最近、駅の中のお店も華やかですね。感じが出ています)

白川郷案山子合掌していたり

S 38 学電 綿引 貞男

(面白い。合掌部落の中に五郎丸が現れましたか)

東尋坊雄島に下ろす虹の脚

”

(正に写生俳句。雄大な情景が見えます)

黒部ダム天空架ける二重虹

S 32 学金 穂坂 邦光

(これも写生俳句。ダム湖の放水にも虹がかかるでしょう)

七夕や健康祈る糸五色

”

(五色の糸に思いを込めて日々の安穩を祈りましょう)

七夕やまだまだ願ふこと多く

S 38 学電 熊谷 文男

(いつまでも若く、年をとらないで)

ビル街に一本足の案山子かな

”

(ビルに挟まれた田圃。サラリーマンが横目で見て行きます)

【選後評】

俳句は「詩」ですから、まづ、創造性と普遍性が大切です。そして、作者から読者に感動が伝わらねばなりません。そこに究極の美(芸術)が生まれるのです。 としを